

スポーツ推進だより



も

パラスポーツ研修会 2

く

令和7年度愛知県スポーツ推進委員研修会 3

じ

パラスポーツ・ニュースポーツ大会体験会 4～5

令和7年度西三河地区スポーツ推進委員実技研修会 6

Area Report【六ツ美北部学区】 7

「愛知・名古屋2026」特集 8

パラスポーツ研修会

豊富学区 村上 伸一、梅園学区 西森 久雄

8月30日(土)に岡崎中央総合公園の武道館にて、パラスポーツ研修会が開催されました。各学区のスポーツ推進委員が参加して、『座位バレーボール』と『卓球バレー』の2競技を研修・体験しました。

★座位バレーボール

お尻を床につけたままプレーするバレーボールで、基本ルールは6人制バレーと同じですが、コートが狭くネットは低く設定されています。はじめは前後左右に移動することも困難でしたが、少し練習すると思っていたより動くことができるようになりました。プレーを開始すると、お尻を床につけなければならないため、大の大人がヨチヨチ歩きをしているようで非常に微笑ましかったです。また、不慣れなりにネットが低いことを利用してブロックを決めたり、ちゃんとレシーブ・トス・スパイクが打てただけでパラリンピックのように大いに盛り上がることができました。



★卓球バレー

1チーム6人で、2チームがネットを挟んで卓球台を囲むように椅子に座り、板とサウンドボールを使って、ネットの下を転がして打ち合う競技です。エアホッケーにも似ています。今回は会議机と会議用の椅子を利用して行いました。卓球バレーのルールは、わかりやすく、練習せずとも容易に馴染めました。正直バシバシと打ち合うだけなので、童心に帰って純粋に楽しくプレーできました。ルール上、ネットでスピードが制限されるので、面識のないかたとプレーしても自然と声を掛け合い仲良くなれました。



まとめ

日頃なかなか体験することのない競技で、推進委員としてより真剣に取り組みましたが、それ以上にゲーム本来の楽しさも実感できました。大変お勧めできる種目ですので、皆さんにもぜひ体験していただきたいです。

愛知県スポーツ推進委員研修会



令和7年度愛知県スポーツ推進委員研修会

常磐学区 市川 佳希

令和7年度愛知県スポーツ推進委員研修会が、9月6日(土)に東海市芸術劇場で開催されました。愛知県内の市町村から750名参加されました。

研修会に先立ち、愛知県スポーツ推進委員連絡協議会勤続20年・10年の表彰が行われ、岡崎市からは20年表彰として中山許さん(城南学区)、石川貴洋さん(矢作北学区)、天野博之さん(秦梨学区)、近藤直樹さん(大樹寺学区)、10年表彰として笹山敦さん(六名学区)、堀場由美子さん(根石学区)、村上伸一さん(豊富学区)の7名のかたが表彰されました。



まず、伝達講習会では『令和6年度スポーツ推進委員リーダー養成講習会』の報告として豊橋市スポーツ推進委員の廣永岩男さんから発表がありました。全国のスポーツ推進委員から74名の受講者が集まり、スポーツ推進委員を取り巻く環境が変化している中での存在意義・役割についてざくばらんに話し合い意見交換が出来たことはとても有意義な時間との報告でした。発表の中で印象に残った事例は、『する』『みる』『ささえる』をキーワードに、スポーツを『つくる／はぐくむ』、スポーツで『あつまり、ともにつながる』、スポーツに『だれもがアクセスできる』ように地域スポーツの価値を高めるというものでした。また、スポーツだけでなく、文化芸術活動や地域課題に関わる役割も重要ということにも共感ができ、自らが地域活動を推進していく中で大事なことだと思いました。

次に、講演研修では、豊橋レクリエーション協会会長の上手孝徳さんから「スポーツ・レクリエーションを『たのしい』から『たのしみ』へ」の講演で、楽しいから続けたいという「継続」から「主体的に楽しむ力」に変えるためにはレクリエーションを運動に取り入れるという内容でした。スポーツ・レクリエーションは、『いつでも』『どこでも』『だれでも』『競技性より遊戯性』というどうすれば楽しくできるかを意識することが大事なことです。研修の中で参加者全員が椅子を使ったジャンケンスクワットで体験しました。最初は渋々だった会場の雰囲気が最後には全体が笑いに包まれ楽しく有意義な研修会でした。

来年は、愛知・名古屋2026(アジア競技大会、アジアパラ競技大会)が岡崎市でも開催されます。微力ながらお手伝いが出来たらご自身の経験や思い出にもなるかもしれません。ボランティア活動と一緒に盛上げてみませんか？



パラスポーツ・ニュースポーツ

愛知・名古屋2026の1年前イベントの一環として、岡崎市スポーツ推進委員ではボッチャとモルックの体験ブースを出展し、あわせてモルック大会も開催しました。どちらも年齢や体力を問わず楽しめるスポーツとして、多くの来場者に親しまれました。

◇ボッチャ体験会

ボッチャは、重度の障がいのあるかたも参加できるパラスポーツとして知られ、ルールはシンプルながらも奥深い戦略性が魅力です。基本ルールは白いジャックボール（目標球）に向かって赤・青のボールを投げ、いかに近づけられるかを競うというもので、誰もが楽しめる競技です。

当日は開始直後から体験希望者が途切れることなく訪れ、スタッフも大忙しの日となりました。特に印象的だったのは、家族連れの来場者が多かったことで、小さなお子さんが一生懸命ボールを転がし、保護者が温かく見守る光景があちこちで見られました。子どもたちは初めてのボッチャ体験に目を輝かせ、投げるたびに歓声が上がるなど、会場全体が笑顔に包まれました。

体験を通して、「ボッチャは思ったよりも難しいけれど楽しい」「またやってみたい」といった感想も多く寄せられ、競技への理解と関心が高まったことを実感しました。



◇モルック体験会

モルックはフィンランド発祥のスポーツで、木の棒（モルック）を投げて木のピン（スキttl）を倒し、合計50点ちょうどを目指す競技です。ルールがシンプルで年齢や体力に関係なく楽しめるのが魅力です。

体験会では室内用モルックを使用し、スポーツ推進委員がルールや投げ方を説明するなどのサポートをしながら体験いただきました。体験会には、友達同士や親子、三世代のご家族など、大勢のかたにご参加いただきました。初めてのかたも楽しそうにプレーしており、「簡単で楽しかった」「思ったところに投げられなかった」といった声が聞かれました。体験会でしたが、やはり勝負心が湧き上がる場面もあり、白熱した試合を行うグループもあって、とても盛り上がっていたのが印象的でした。小さなお子さんや高校生、お孫さんと一緒にプレーされる祖父母のかたの様子を見て、幅広い年齢のかたが一緒に楽しめるスポーツだということを改めて感じました。



大会体験会

羽根学区 成瀬 啓亮、緑丘学区 善如寺多恵

モルック大会

第2錬成道場にてモルック大会を開催しました。

今大会には午前・午後合わせて32チームにご参加いただきました。親子で参加されたチームや友達同士のチーム、モルックを体験するのは初めてというチームなど、さまざまなチームカラーが見られました。各チームが作戦を立てながら、自分たちの得点を伸ばすと同時に、相手に得点を取らせないよう戦略的なプレーを展開し、試合を重ねるごとにチームワークが深まっていく様子が見られました。ナイスプレーが出るたびに歓声があがるなど、真剣に、そして楽しそうにプレーされている姿がとても印象的で、スポーツを通じた交流のすばらしさを改めて感じました。



第1部
優勝
チーム



Aブロック
家族



Bブロック
常磐スポ振B

第2部
優勝
チーム



Aブロック
チーム今津



Bブロック
梅太郎



Cブロック
OM倶楽部1



Dブロック
あきなつゴラッソ



Cブロック
ブシクフ



Dブロック
TYK

今回のイベントを通じて、スポーツを通じた世代間交流や、障がいの有無を超えて楽しめるスポーツの魅力を改めて感じていただけたと思います。今後も市民の皆さんが気軽に参加できる機会を提供し、誰もがスポーツを楽しめるまちづくりを進めていきたいと思っています。

令和7年度西三河地区スポーツ推進委員実技研修会

矢作南学区 楓 順子



令和7年11月8日(土)スギ薬局知立福祉アリーナにて西三河実技研修会が開催されました。西三河10市町のスポーツ推進委員175名が参加しました。



研修会に先立ち、スポーツ推進委員継続年表彰が行われ岡崎市では、5年表彰として、広幡学区 加藤祐史さん、生平学区 杉田至さん、矢作南学区 小林康浩さん、宮崎学区 山口晴己さんが受賞されました。今後もスポーツの普及活動の推進をお願いしたいと思います。

開会セレモニーにあたり竜北中学校和太鼓部「御祖」さんが和太鼓を披露してくれました。とても迫力のある素晴らしい演奏でした。



今回の研修は2部制で行いました。

「第一部」日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科 教授 小林寛和さんより「スポーツ活動時のケガや故障を予防するための基礎」について実技講習を交えながら教えていただきました。スポーツによるケガや故障のリスク要因、予防のための身体の使い方と対応策などを学びました。



「第二部」ミニテニス、和太鼓体験、モルック交流大会の3種目から、参加者が1種目を選択して行われました。和太鼓は開会セレモニーで演奏してくださった竜北中学校和太鼓部の「御祖」さんが講師となり教えていただきました。異なる市町の3人1組に1人の講師を付けて7つのパートを学びました。同じ小節の中でも強弱をつけて和太鼓を打ったり、右手と左手で違うリズムで打ったりと難しく参加者は四苦八苦しながらも共感し合い、励まし合い楽しむことができたと感じました。



今回の研修会を通じて西三河スポーツ推進委員の交流を深め、競技への理解をより深めることもできたと感じ、とても学びのある1日となりました。

Area Report 【六ツ美北部学区】

六ツ美北部学区 近藤 由香

岡崎市の南にある六ツ美ブロックの中でＪＲ岡崎駅近くにあるのが六ツ美北部学区です。

駅近なのと近隣に大きな病院
や警察署ができたことにより、
住民が年々増えつつあるエリア
と昔ながらの田園風景が広がる



エリアとがあり、ほどよく街と田舎がミックスされた地域で、六ツ美北部小学校を中心に5つある町は、夏祭りや秋の大祭での舞姫、おやじの会などそれぞれの町内活動も盛んです。

また各町にスポーツサークルもいくつかあり、子どもの家では連日掛け声や床を蹴るシューズの音が響いています。

体育部の行事としては、これまでソフトミニバレー、ファミリーバドミントン、グランドゴルフ、ソフトボールの4つの大会を開催していましたが、ソフトボールが天候などの諸事情によりできなくなったため、今後はポッチャなどのニュースポーツを取り入れていくことを検討しています。

幼少期から地元に住んでいる人も多く、大会では対戦相手に同級生がいたりして、お互いの近況や体型の変化について語ったりとどの大会も毎回にぎやかで、熱のこもったプレーや笑いもあり大いに盛り上がります。

しかしながら、町によっては世帯数があまり変わらず選手集めが大変で、転入者があっても地域交流に積極的でないなど他学区でもよくある問題があります。

そんな中、令和5年に当時の学区体育部役員が金曜会を立ち上げました。

金曜会は学区のスポーツ大会として新しく始めたファミリーバドミントンの普及を促すと共に、町を超えた交流の場を提供する目的で、毎週金曜の夜に小学校体育館でファミリーバドミントンの練習を行っています。参加者は小学生から高齢のかたまで幅広く、常に20人程集まり汗を流しています。

近年ではストレスを感じやすい現代社会において、家庭や職場以外のサードプレイスの重要度が増しています。中立的で誰もが利用しやすく、会話や交流が自然に生まれる雰囲気があり、アクセスしやすく気軽に立ち寄り、緊張せずに過ごせる場としてこの金曜会はぴったりだと思います。

活動開始から数年経ち、初心者とベテラン、真剣に勝負したい人と楽しくやりたい人など考え方の違いもあり今後活動していく上での課題も共有しながら、お互いに歩み寄って長く続く会になっていくことを願っています。

こどもの家利用団体						
	日	月	火	水	木	金
午前	お母さんクラブバドミントン	すまいるバドミントン		なみよしクラブバドミントン	月内長寿会バドミントン	ママバドミントン
午後	界内いはいはみミニバレーフェイバリバドミントン					
夜	インディアカ同好会	ソフトテニスミニソフト	六ツ美バドミントン	Y&Mソフトミニ	イーグルスバドミントン	24歳未満ソフトミニバレー13-15歳社会体育部



岡崎市、国際舞台への挑戦—愛知・名古屋2026 1年前イベント開催！

生平学区 杉田 至、羽根学区 成瀬 啓亮

2026年に愛知・名古屋を中心に開催される「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」と「第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）」に向け、岡崎市では10月26日（日）岡崎中央総合公園で「愛知・名古屋2026 1年前イベント」が開催されました。会場には多くの市民や家族連れが訪れ、笑顔あふれる一日となりました。

アジア競技大会はアジア・オリンピック評議会（OCA）が主催するアジア最大のスポーツの祭典で、45の国と地域が参加します。日本での開催は1958年東京、1994年広島に続き32年ぶり。アジアパラ競技大会は障がいのあるアスリートが参加するパラスポーツの総合競技大会で、日本では初めての開催です。

岡崎市では、「Let's Sports ～スポーツで未来を拓く～」としての地力とインフラ整備が評価され、岡崎中央総合公園がアーチェリー、バレーボール、野球、座位バレーボールの会場に選ばれました。1年前イベント当日は、アーチェリーや新体操、卓球、空手など9種目を体験できるブースが登場。初めて弓を引く子どもが的を射抜くと歓声が上がり、空手の演武では迫力ある動きに観客が息をのむ場面もありました。フォトスポットではカヌー体験写真やバレーボールの最高到達点を体感できる展示が人気を集め、会場は終日にぎわいました。



また、ステージでは和太鼓やダンスのパフォーマンスが披露され、公式マスコット「ホノホン」と「ウズミン」も登場。来場者とのふれあいで一体感が生まれ、来年の大会への期待が一層高まりました。

一方で、大会成功のためにはボランティアの力だけでなく、地域の理解が欠かせないことから、岡崎市でも市民への啓発や広報強化が求められています。市は広報紙やウェブサイトを通じて参加意識の向上を図り、地域全体で大会を支える体制づくりを進めています。

岡崎市はまた、「スポーツ×観光」の相乗効果にも期待しています。徳川家康ゆかりの地として、訪れる選手や観客に

地域の魅力を発信する絶好の機会です。市担当者は「誰もが利用しやすい環境づくりを進め、最高のおもてなしを目指したい」と語ります。

国際大会の舞台となる岡崎市。1年前イベントを通じて市民の関心と誇りが高まり、まちは着実に本番へと歩みを進めています。いよいよ来年、世界の注目が岡崎に集まるでしょう。



発行 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会

編集 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会 広報・事業部

事務局 岡崎市社会文化部スポーツ振興課（TEL：23-6363）

H P <https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>

